

## エピソード19

「学校にどうしても入れないんです。」



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験  
があります。エデュサポネットのファ  
シリテーターです。



小学校で、学級担任をしていた時の  
経験をお聞きします。

僕の学級のえみさんは、入学した時から、  
学校になかなか登校できないお子さんでした。

週一回、僕はお便りやプリントを家庭に届けて  
いました。お母さんは仕事で留守でしたし、  
えみさん本人にも会えない状態でした。





どんな出来事があったのですか。

ある時、お母さんに学校に来ていただく  
必要があり、連絡して日時を決めて、  
学校でお待ちしていました。





お母さんは、学校に来てくれましたか。

職員室の窓から、校門のところで行ったり来たりしているお母さんの姿が見えました。

しばらくしても、学校に入って来る様子がないので、僕は急いでお母さんのいる校門のところまで行ってみました。





その時のお母さんは、どんな様子でしたか。

お母さんは泣いていました。  
僕は驚いて、どうしたのか聞きました。

お母さんは、「どうしても、学校に  
入れないんです。」と話しました。





お母さんのお話を、聞かせてください。

お母さんは「私は、子どもの頃から人が怖くて、人と話すことが苦手でした。

うまく話そうとすればするほど、辛くなって、その場にいられなくなってしまふんです。」と話してくれました。







先生は、お母さんの話を聞いて  
どう思いましたか。

お母さんの抱えている辛さが、  
僕にも理解できました。

その後は、お母さんが希望した時は対面で、  
それ以外は連絡帳でやり取りをしました。





えみさんには、どのような  
対応をしたのですか。

お母さんの、学校や人とのかかわり方が、  
えみさんの不登校にも、影響を与えて  
いるのかもしれないと考えました。

できることをお母さんと相談しながら、支援を  
続けました。登校には至りませんでした  
が、少しずつ心を開いてくれていると感じました。







その後のことを教えてください。

その後、えみさんは家庭の事情で  
近くの小学校に転校することになりました。

転居先を訪ねると、えみさんが適応指導  
教室に通い始めたとお母さんが話して  
くれました。とても安心しました。





## なみちちゃんの一言

- 子どもの行動には、保護者の問題が影響している場合も多くあります。
- 保護者を支えていくことは、とても大変なことですが、保護者にも配慮しながら、できる支援を、一緒に考えていけるといいですね。

お・し・ま・い



イラスト 尾上樹里  
(北海道教育大学 大学院生)